

Hidden Curriculumの心理学的支援 — 大学や地域、認定心理士の会活動を通して

放送大学東京文京学習センタークラス会支援委員会 委員長

中村由美 (なかむら ゆみ)

全国に点在する放送大学のなかでも東京文京学習センター(以下、東京文京SCと略す)では多くの学生が学び、私も10数年前に入学以来、3年次編入を繰り返し、長く在学しています。放送大学は教養学部の単科大学で、6つの専攻があり、なかでも心理と教育専攻の学生率は高く、2014年度末累計では、認定心理士資格取得者の全国累計46,000人のうち、放送大学の資格要件取得者は5,600人以上にも及んでいます。また、指定大学院や専門職大学院の修了を受験資格の要件とする臨床心理士の志望者には、大学院への進学のために、学部の心理学基礎の履修をみとめる認定心理士の取得を勧めています。

ところで、大学教育の現場では、学生-学生、学生-教員、学生-職員との関係からも学びの機会が得られますが、とくに学生の主体的学習の支援が求められています。同時に、大学教育はFormal Curriculumのみではなく、例えば、学生同士の相互作用を期待する授業外活動などのHidden Curriculum(隠れた・潜在的カリキュラム)も重要な課題です。

このようなニーズに応えるものとして、東京文京SCでは、2015年度より新入学生を対象とした入学年次ごとのクラス会を発足し、2年目を迎えました。遠隔教育のなかで、入学直後から学習の軌道に乗るまでの支援や、強いては学位

修得率の向上などを目的としています。

クラス会でも、認定心理士をテーマにして心理学の専任および客員教員による説明が行われ、資格要件の履修科目の選定や、毎年改訂される認定心理士の手引書をもとに申請方法を確認するなど、資格取得に関する情報を提供しています。アンケート調査では、卒業と認定心理士を目指したいとの回答や、他専攻の学生からは心理学に興味を持ったという意見も届いています。豊かな年齢層や社会人経験者の多い放送大学ですが、クラス会に参加している医療従事者や福祉関連など心理の隣接的な就業者からは、最近では公認心理師の話題も挙がるようになりました。このように学生間の情報共有や仲間意識の醸成とともに、学びの内発的動機に繋がっているクラス会活動は、大学での学習を支えるHidden Curriculumであるといえます。

クラス会の組織は、東京文京学習SCと、大学から選任されたクラス会支援委員会、そして年度ごとの新入学生有志による三位一体の協同作業で運営し、本稿執筆時点で8回程度開催しました。私は

Profile—中村由美

放送大学教養学部で4つの専攻を修了。現在、放送大学大学院文化科学研究科修士選科生(臨床心理学)。日本心理学会認定心理士の会幹事、江戸川区ファミリーサポート協力会員等を兼務。



放送大学マスコットキャラクター「まなびー」と一緒に(クラス会にて)

クラス会支援委員会委員長を務めています。認定心理士の取得後も心理学を学び続けています。さらに、2016年度に創立した日本心理学会の下部組織である認定心理士の会では、幹事のひとりとして、シンポジウムや懇親会などを開催し、認定心理士同士で横に繋がりが持てるような活動を行っています。

そのほか、東京都江戸川区ファミリーサポートセンターの協力会員として、随時子どもの一時預かりの援助活動もしていますが、子どもに対する家庭(養育者)と学校以外の地域による育児の助け合いに、心理的なプロセス思考やカウンセリングが役立っています。

このように大学や地域など対象者が異なる支援ですが、いずれも向社会的行動がストレスの軽減に繋がりを、コミュニケーション能力や社会的人間性が養われるのではないかと考えています。